

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	第7回西脇市総合計画審議会
開催日時	平成30年9月18日（火） 午後7時から8時45分まで
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター 3階
出席委員の 氏名又は人数	12名
欠席委員の 氏名又は人数	6名
出席職員の職・ 氏名又は人数	事務局4名／関係課職員6名
公開・非公開 の別	公開
非公開の理由	
傍聴人の数	4名
議題又は 協議事項	1 西脇市総合計画・基本計画（案）について (1) 第6章 (2) 第7章 2 部会の開催状況について 3 その他
会議の記録（概要）	
発言者	<p><開会> 資料確認</p> <p><あいさつ> 夜の開催で申し訳なく思うが、海外ではより多くの委員に参加いただくために夜間開催も多い。御容赦願いたい。 本日は基本計画のうち6章及び7章について議論いただく。6章や7章はまちづくりを進める上での仕組みや制度の分野になり、具体的な政策とは異なる内容で御意見が出しにくいかもしれないが、重要な分野であり、活発な議論をお願いします。 また、前回の会議で部会による検討をお願いし、この間、</p>
事務局	
会長	

	<p>「子育て・教育」「健康」の2つの部会で検討していただいた。その報告もお願いする。</p> <p>なお、本日は12名の委員に出席をいただいております、定足数を満たし会議が成立していることを報告させていただきます。</p> <p>< 1 西脇市総合計画・基本計画（案）第6章 ></p>
事務局	資料に基づき、事務局から説明
会長	事務局から、第6章の計画案について説明があった。御意見あるいは御質問があればお願いします。
委員	「政策1 参画と協働のまちづくりを進める」で「市政への市民参画の機会を充実します」とあり、「パブリック・コメント制度の適正運用」とある。いろいろな審議会や委員会でパブリック・コメントを実施しているが、どの程度の方がパソコン等で資料を閲覧し、またどの程度の意見が出されているのか。
市担当者	閲覧人数については今、手元に資料がないので、後程報告する。意見の提出は、一人から複数の意見が出されるケースがあるが、平成29年度で1案件当たり平均 3.7人から提出があり、意見数は平均で11件であった。
委員	1案件当たり 3.7人が適正なのかどうか分からないが、市民にはもっと市のホームページを見てほしいと思う。行政からは様々な情報提供や提案がされているが、まず見なければどうにもならない。もっと見てもらうための工夫、意見をもらうための工夫が必要なのではないか。我々のような審議会の意見は専門的になる場合が多く、一般的な市民の意見が得られていないのではないかと思います。
市担当者	できるだけ多くの方に見てもらえるよう、図書館への資料の配置、Facebookでの発信、防災行政無線による発信など、多様な方法に取り組んでいる。しかしこれで十分とは考えておらず、対象者に対する直接的なアクションなどの必要についても考えている。

会 長	どのまちでも課題になっている。情報提供を頑張っても成果につながっていないケースは多く、難しい問題である。
事務局	市としては、パブリック・コメントに限らず、アンケート調査を実施したり、あるいは今回の総合計画では募集した市民によるワークショップを実施するなど、できるだけ多くの市民から意見を聞くため、チャンネルを広げる努力をしている状況である。
委 員	「政策2 持続可能なコミュニティをつくる」の「持続的なまちづくり活動を促進します」について、「中間支援組織」の記載がある。用語解説をみても、NPOサポートセンターのイメージが湧かない。地域自治協議会などは既に支援を受けている。誰がどのように設置するようなイメージなのか。
市担当者	<p>「支援が必要な人・団体と、支援したい人・団体をつなぐことをミッションとするNPOや社会福祉法人」などのことで、相談、研修、ネットワーク化、活動支援などの機能を担うことを想定している。中心市街地における西脇TMO (Town Management Organization) はそれに近い機能を持つ組織のひとつである。</p> <p>現在、西脇市にはそうした役割を担う機関・団体はなく、市外で中間支援活動を実施している人や団体からOJTのような形でノウハウを得て、市民が育っていくような展開を期待している。</p>
委 員	想定している担い手は市職員なのか。
市担当者	市職員とは考えていない。民間の専門家やNPOの方などを想定している。
委 員	<p>「政策2 持続可能なコミュニティをつくる」の「高校・大学との連携を推進します」について、西脇市は関西学院大学と協定を結んでおり、最近2年にわたって同大学の学生からまちづくりに関する提案を受けている。</p> <p>昨年には、播州織による浴衣づくりという面白い提案があり、西脇商工会議所としてその実現に動いた。この夏、10人の学生に参加してもらい、2日間にわたって生地選び</p>

	<p>から浴衣づくりまでを行い、「へその西脇・織物まつり」で播州織ファッションショーの前に浴衣ファッションショーを行った。来年は学生だけでなく、一般の人も対象にして、例えば観光に訪れた人にもものづくり体験として浴衣づくりをしてもらうような仕組みができないかと考えている。どの程度の費用が掛かるか、などの課題はあるが、継続したい。</p> <p>それに関して、この7月に今年の提言発表の予定があったが、台風で中止になった。もう開催は考えていないのか。</p>
事務局	<p>台風の影響で延期とさせてもらっており、大学と調整している。</p>
委員	<p>提言が具体的な取組として取り上げられることで、学生のやる気や達成感にもつながる。イベントとして定着させたい。若者の視点を生かした提案をどんどんしてもらい、我々から行政にも提言したい。</p>
会長	<p>学生の経験にもなり、学生を指導する立場としてありがたい。若者の提案をもとに工夫して施策に生かすことは重要なポイント。特に体験型観光は今後のまちづくりにおいても必要である。ただし、基本計画での位置付けは、観光分野になるかもしれない。</p>
委員	<p>「政策1 参画と協働のまちづくりを進める」については、参加する人を増やすことが必要だと思う。ただ、野村地区は人口が多すぎる。広報だけを見ても、広報紙等を配布するだけでも時間がかかり情報共有も難しい。人数が多いことで役員が回る人も限られ、無関心層が増えている。参加者を増やそうとするなら、区割りの見直しや役員がもっと多くの人に当たるような工夫が必要である。行政としてはどう考えるのか。</p>
市担当者	<p>指摘のとおりで、参加を半強制的にするというのもひとつの方法だと思う。しかし、行政としては市民の自主性・主体性による行動を重視している。先にまちづくり講座を開催したところ、広報活動を熱心にしていただき、若い女性も参加されるなど、まちづくりへの気運は高まっていると感じている。地区計画の準備も始まっており、オール野</p>

	<p>村によるまちづくりが進むよう、今後も支援したい。</p>
委員	<p>野村地区で人権研修を実施した際には、市民の皆さんに声かけをしてもらった結果、200人ほどの参加をいただいた。行政が直接呼びかけてもそこまで集まらないだろう。住民参加を進めることでリーダーが育ち住民の皆さんを引っ張っていく、そういう方法を繰り返していく方法でなければ、政治や行政に対する無関心化が進むだろう。やはり住民パワーが大切で、そのための積極的なアプローチが重要だと考えている。</p>
委員	<p>まちづくりの懇談会に参加するのは地区住民の何分の一かであり、参加する人は関心を持っていると思うが7,000人程度が住む野村地区においては関心のない人が非常に多い。実際、役員が当たっても断られることもある。まるで他人事のように、これで良いのかと危惧している。地区を分けた方がよいかも思えないと思うこともある。</p> <p>なんとかしなければ、という思いはあるが、3、4、5区には話をしようにも場所がない。まずそれをどうしようかと思う。</p>
会長	<p>活動のためには場所の問題も重要である。</p>
委員	<p>「政策4 西脇への関心を高める」の「西脇プライドを醸成します」について、「東京西脇多可の会など本市出身者ネットワークの形成・活動支援」があるが、学生も入っているのか。定住促進サイトの情報発信などをみると、他のまちで生まれ育った人が主な対象のように感じるが、西脇に生まれ育ち、進学や就職で一度離れて、もう一度帰ってくる人もいるのではないか。</p>
市担当者	<p>「東京西脇多可の会」は西脇市・多可町に縁（ゆかり）のある人で構成している。学生にも入会してもらっており、高校のホームページでもPRをお願いしている。今後も多くの人に入会していただき、まちに関わりを持ち続け、またふるさと納税などを通じて支援をいただきたいと考えている。</p>
事務局	<p>Uターンに的を絞った施策は現時点ではないが、移住・</p>

	<p>定住施策の一環として空き家改修などの取組を行っており、定住促進サイトを通じて外部に広く発信していきたいと考えている。地元を離れた人にもふるさととのつながりを保ってほしいし、郷土愛を育むような取組は必要であると考えているので今後も検討していきたい。</p>
	<p>< 1 西脇市総合計画・基本計画（案）第7章 ></p>
事務局	<p>資料に基づき、事務局から説明</p>
委員	<p>「政策5 安心して分かりやすい窓口業務を行う」について、マイナンバーカードを持っているが、今、市役所に行っても、これを見せるだけでは住民票をもらうこともできない。持っていてどこで使えば良いのか。証券会社や銀行で提出しろと言われる程度で、行政サービスでは利用価値がない。</p>
市担当者	<p>マイナンバー制度により転入時の手続が軽減されるといったことはあるが、マイナンバーカードについては、現時点では通知カードと身分証明書が必要だったものがマイナンバーカードだけで済むといった程度の利便性しかない。先々には、例えば被保険者証と一体化させるといったことで利便性が高まる可能性がある。また、西脇市では住民票のコンビニ交付などに活用したいと考えている。</p>
委員	<p>コンビニ交付について、具体的な工程は決まっているのか。</p>
市担当者	<p>予算措置が必要になるが、来年度中にスタートできればと考えている。</p>
委員	<p>「政策1 行政資源の有効活用を図る」について、市民ニーズは増え、市職員数は減少傾向ということで、広域行政によるフォローは良いが、さらに民間委託を進めることは考えていないのか。</p>
市担当者	<p>市町合併後、委託できる業務についてはかなり進めており、類似団体との比較でも職員数が全国で二番目に少ない</p>

	<p>まちとなっている。単体で委託できるようなボリュームのある業務はあまりないのが現状である。ただ、類似業務をひとまとめにする、あるいは地方分権や新たな課題への対応で新たに生じる業務については、委託の可能性を点検していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>「政策5 安心して分かりやすい窓口業務を行う」について、基本的に市役所は頑張っていると思う。ただ見ていると、たまに窓口で理不尽な要求をする人がおり、そのために窓口が混んでいることがある。こうした事態にうまく対応できるようなスペシャリストを配置するといったことはできないのか。</p> <p>必要以上に丁寧な対応をしなくても良いと思う。動物や虫の声まで行政に何とかしろというのは、職員がかわいそうになる。</p>
<p>市担当者</p>	<p>案件によって、個別の相談室に案内して丁寧に対応するといった方法をとっている。また、クレーム対応研修等を実施しているが、現場でマニュアルがそのまま応用できることは少ない。難しい問題であり、市民の皆さんの知恵もお借りしたい。</p>
<p>会長</p>	<p>民間企業ならクレーム対応専門の人を配置するといったことをしている。それも行政では簡単ではないだろう。</p>
<p>委員</p>	<p>「政策5 安心して分かりやすい窓口業務を行う」の「安心してできる相談業務を行います」について、障害者はもちろんであるが、今後、高齢の方が増えると、見えにくい、聞こえにくい、専門用語を理解しにくいなど、いろいろ配慮が必要な問題が増えると思う。西脇市では障害のある人に対する対応はできていると思うが、今後も適切な対応を期待したい。</p> <p>ハード整備についてであるが、みらいへの整備に際しては、障害を持った子どもがいる保護者に事前に見てもらい意見を聞くという機会があり、なるほどという意見も出ていた。新庁舎の整備に際しても、まずイメージしやすい情報を提供し、また意見を聞く機会をつくってほしい。また、ほぼできあがった段階でも、ちょっとした変更に応えるといった柔軟な対応ができるようにしてほしい。</p>

事務局	<p>建築後の変更は難しい部分もあるので、今回は新たな手法として事前にVR（バーチャル・リアリティ）を使ってパソコン上で完成後の施設を見ていただくなどの工夫をして、各種団体からも意見をもらえるようにしたいと考えている。</p>
委員	<p>「政策5 安心して分かりやすい窓口業務を行う」の「窓口サービスを充実します」について、証明書のコンビニ交付が位置付けられているが、地域自治協議会で実施するという話もあったのではないか。</p>
市担当者	<p>地域自治協議会に対する協働型委託という方向性はあるが、住民票の発行など法的根拠の必要な事務、あるいは公金に関わる取組については、一定の制約がある。</p>
委員	<p>コミュニティセンターなどはコンビニ以上に地域で身近な場所にあることが多く、地域にとって有効なのではないかと思う。</p>
市担当者	<p>コミュニティビジネスの視点から地元でコンビニエンスストアを運営していただき、こうした事務を受託するという方法があると考えている。</p>
委員	<p>「政策1 行政資源の有効活用を図る」の「スマート自治体を推進します」について、新たな考え方としてRPAという言葉が出ている。西脇市では現在、どのような状況か。</p>
市担当者	<p>RPAは製造業でいえばFA（ファクトリーオートメーション）のようにロボット化で業務効率化を図ることであるが、事務的な業務ではパソコンのアプリケーションの活用により、人間が手作業で行っていた計算や印刷といった事務を自動化するイメージである。また、現在使用しているシステムとシステムを連携させ、トータルとして自動化いく技術である。</p> <p>民間では普及しているが、まだ周辺都市なども含め、行政事務の効率化につながるのかといった情報収集の段階であり、今後、導入を検討していきたい、ということで記載している。</p>

会 長	<p>「政策1 行政資源の有効活用を図る」について、広域行政については国が定住自立圏などを打ち出している。西脇市で具体的な計画があれば、説明をお願いする。</p>
事務局	<p>本市においては定住自立圏の中心市宣言を行い、多可町との間で定住自立圏形成協定を締結、医療分野で多可町への医師派遣を行うなど、互いの住民にとってメリットのある分野で連携を進めている。今後、水道や公共施設の相互利用など、コスト面などを意識した連携に取り組みたい。</p>
副会長	<p>前回（福祉・医療分野）に比べて今回の分野は少し分かりづらいところがある。具体性や具体的な方向性が見えないところがあり、各委員からもそうした部分に質問が出ている。特に第7章はまだ分かりやすいが、第6章については短い文書で構わないので、理由、方向性、具体性が分かるように工夫してほしい。</p> <p>例えば、政策1の市民参画の部分や政策2の高校・大学との連携の部分などで、あり方や方向性を示す方が分かりやすくなるという風を感じた。</p>
市担当者	<p>先にいただいた質問であるが、パブリック・コメントについてデータを紹介する。9月から実施している総合計画・基本構想（案）については9/1～9/18の間に86件のアクセスがあった。多寡については議論が分かれるところであるが、様々な場所に資料を配置するなど工夫をしている。</p>
会 長	<p>多いような印象もあるが、アクセス数も同じ人が繰り返しアクセスするのをどうカウントするかによって数字は変わってくるので、分析は難しい。</p> <p>それでは、本日の意見・提案等の計画への反映について検討をお願いする。</p>
	<p>< 2 部会の開催状況について ></p>
事務局	<p>資料に基づき、事務局から説明</p>
会 長	<p>熱心に議論をいただき、お礼を申し上げる。参加された方から補足などはあるか。</p>

<p>委 員</p>	<p>「子育て・教育部会」に参加した。これから人口を増やす方法を考えなければ、危機的な状況にあるということを感じた。もっと子どもの育てやすさ、住みよさをアピールしていく必要がある。</p> <p>「東京西脇多可の会」には学生はあまり参加しないかもしれないが、学生と引き続き縁（えん）を持ち続けていくこと、西脇の住みやすさをアピールすることによって、進学・就職したとしても、いずれ帰って来てもらえるようにつなぎ止めていくことが必要だと思う。西脇のことを懐かしみ、その良さを発信していただくことも大切だが、出て行った人に帰ってきてもらうための取組も必要である。</p>
<p>事務局</p>	<p>ふるさと西脇との縁を出身者・学生と保つことは大切だと考えている。現在、小・中学校に市長が出向いて授業を行っており、そうした取組を通じて西脇の良さへの気づきにつなげたい。また、子どもたちや学生が住みよさを実感する体験が大切だと思う。今後もふるさと意識を持った子どもを増やしていきたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>子育て・教育及び健康については部会でいろいろな意見・提案が出ており、計画に生かしてほしい。ただ、良いことを並べるだけでは両立できない部分もあるかもしれない。優先順位などに配慮して検討をお願いする。</p>
<p></p>	<p>< 3 その他 ></p>
<p>事務局</p>	<p>次回は10月を予定しており、別途、連絡させていただく。御意見・御質問シートを用意しているので、改めて気づいた点などあれば、事務局まで提出をお願いする。</p> <p>基本構想のパブリック・コメントは9月30日を締切りとしている。周囲の方などにお声がけをお願いする。</p>
<p>会 長</p>	<p>また1か月後くらいに会議を開催させていただく。今後も夜間開催になることもありえるが、御協力をお願いしたい。本日も熱心な議論をいただき、感謝する。</p> <p>< 閉会 ></p>

問合せ先	西脇市都市経営部次世代創生課 TEL 0795-22-3111 / FAX 0795-22-1014
------	---